

本工法の活用後の効果について、旭川開発建設部 士別道路事務所 工事課 第1建設係の大部係長は、「従来技術である『測量による丁張掛けと目視確認(敷均し作業時)及びパスカウンター、人手による転圧回数カウント(締固め作業時)、RI計測器や砂置換法等による密度管理』に比べ、測量に係るコスト部分やRI計測器・砂置換法等による密度管理頻度を削減でき、丁張作業の省略により作業員が重機に巻き込まれる危険性が無くなる」とコメントを寄せて頂きました。

また、同課の藤井技官は、「経済性については本工法の普及による設置機器と管理ソフトのリース費用の低減化に期待している。また、丁張作業の省略や、管理精度の向上により施工スピードが早まったために工期短縮が図られ、更に、このことにより、雨天が予測される場合に、前もっての施工が可能となり、雨天時での締固め作業がなく品質の向上につながっていると思う。

重機の転回の特性上、構造物付近では転圧不足の箇所が発生する場合があるが、本工法ではPC画面上に色の違いとして転圧回数不足箇所が表示されるため、品質の確保に寄与していると思う」とお話し下さいました。



■締固め作業状況



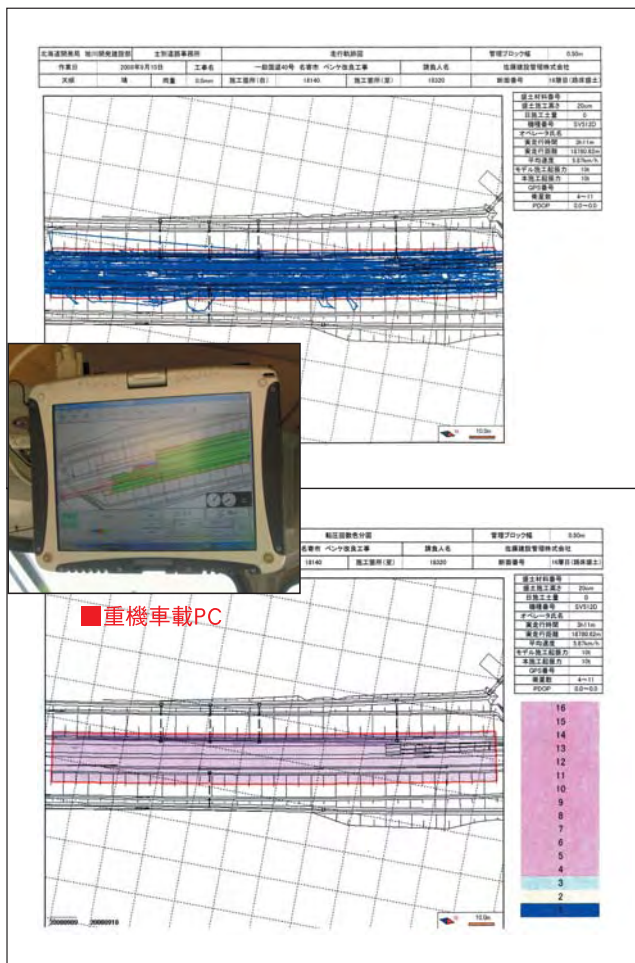
■GPS受信機

オペレータに負担がかからない システム環境対策にも期待

「施工者、管理者のリアルタイムな情報共有は本工法の特徴の一つですが、オペレータ側から見た本工法の使用後の感想はどのようなものであったのでしょうか？」

「タイヤローラ車載のPC及び重機コクピットとの取付アタッチメントは耐震用仕様で誤作動は発生せず、重機振動によるPC画面情報の視認性低下も見受けられませんでした。表示方法や搭載システムの起動・停止方法、事務所PCへのデータ受け渡し方法も簡易且つ明快で、重機操作の弊害発生やシステムに対する操作熟練度を要求される状況にはなっていないと思います」とのことでした。(藤井技官)

また、同席された渡辺所長は、「転圧回数管理方式での施工は回数管理のため従来技術に比べ重機稼働ロスが少ない。その意味では省エネ、CO2削減効果があったと考えている」と環境への効果についてお話し下さいました。



■走行軌跡図(上) ■転圧回数色分図(下)

担当部署 からの 声

旭川開発建設部
士別道路事務所
工事課 第1建設係
藤井 敏久 技官



「地形によってはGPSの感度を事前確認することが重要です。使用した土質の影響で施工に苦慮する部分もありましたが、計画通りの品質を確保でき、本工法は有効であったと感じています。施工データの即時転送等によるバックアップシステムの充実に期待します。」